

2007年は診療情報管理士にとっての明治維新の年

阿 南 誠

独立行政法人国立病院機構九州医療センター
医療情報部診療情報管理室 室長
専門課程小委員会 委員
診療情報管理士指導者

既に、2007年を迎えて早一ヶ月が過ぎようとしているが、昨年8月に福井市で開催された日本診療録管理学会学術大会以降、我々診療情報管理士は、かつてない大きなムーブメントの最中にいる。

大きなムーブメントとは、福井の学術大会開催期間中に、悲願であった診療情報管理士の統一された職能団体の設立（日本診療情報管理士会）への合意である。13,706名の仲間に対する診療情報管理士としての生涯教育や実務の支援等を今後は職能団体を中心に考えていくことになるであろう。また、DPCやがん登録、個人情報保護法等の施行という後押しもあって、診療情報管理士への周辺からの期待はより大きなものになっており、スキルアップも待たなしである。このような環境の中、このタイミングでの職能団体の設立は、正に診療情報管理士にとっての明治維新であると考えている。

また、ご存じの方も多と思うが、社団法人日本病院会、日本診療録管理学会の先輩諸氏の努力により、ここ数年、ICD関連について諸外国の関係者、特にWHOとの交流が盛んである。2007年の京都市における日本診療録管理学会においては、同一週にWHO関連のイベントが同じ京都市で開催され、関係者はそのまま学術大会にゲストとして参加されると聞いている。かつてなかった国際色豊かな学術大会となることは必至である。さらに、京都市の学会に先立つ5月には、お隣の韓国で、IFHRO (International Federation of Health Records Organizations) の国際カンファレンスが開催されることとなっており、我が国から参加される方もあろう。このような環境変化は我々診療情報管理士も国際的な視点に立って考えることを強いることであり、正に黒船来襲である。

以上述べたように、2007年は、我々診療情報管理士にとっての明治維新、黒船来襲であり、マイルストーンとなるべき年である。

どうか、受講生の方々は、診療情報管理士に認定された暁には、このような時期にあることを感じていただきたい。そして、職能団体や学会に参加して一緒に診療情報管理士の未来を作っていただきたいと強く希望する。